『ムーンライダーズ BAKA！あがた森魚 CRAZY！２０００系』ライヴ・レポート

(2000.08.19 On Air West) text by 倉太割通　　kashi no kai

元々は地元岡山で毎年正月にライブを行っていた架空楽団。東京在住の出不精ならまず確実にライブ体験は不可能であるウワサのバンドだっただけに、東京でライブを演ると決まった９７年の夏は、何しろ前年のライダーズ２０周年のアニバーサリーな余韻をそのまま「本人」達が「コピーバンド」のライブ会場に持ち込んだこともあって、非常に画期的な経験をすることが出来たと思っている。以来今年で４回目の架空体験者となったのは当然と言えば当然かも知れない。

さて、今年２０００年の東京公演であるが、おおむね順調に式次第をこなしていたようではあるが、どうも曲の並べ方に難があったようで、今ひとつ怒濤の盛り上がりに欠けたような気がした。やはり、日程調整等準備不足が祟ったのか。また、公演後架空楽団の松武秀樹こと矢島氏に聞いたのであるが、今年はシーケンスソフトをアップグレードの関係上、例年使用していた VISION からライダーズも使用している CUBASE（ＶＳＴ）に変更し、コントロールは i-book からと楽曲によって音源側からコントロールする２系統にしたそうであるが、機材の方は昨年に比べ一層軽量化を図った模様。ただし打ち込みの方は、例年通り日程的に相当ハードだったらしく（苦笑)、まさに這々の体だったようである。

ところで、今年もゲストは豪華絢爛だった。今だぱい現役宣言をしているという本多信介氏、はっぴいえんどフリークとして有名な俳優佐野史郎氏。バンド結成はたぶんライダーズより長いんぢゃなかったかな？センティメンタル・シティ・ロマンスの細井豊氏。そして昨年に引き続きサエキけんぞう氏、ライダーズから白井良明氏らがゲストとして参加。大いに盛り上がったのである。特に圧巻だったのが本多信介、佐野史郎、細井豊が加わっての「こうもりが飛ぶ頃」。個人的にはもっとインプロ部分を聴いていたかったが、本多氏の静かではあるが緻密なプレーには長年蓄積してきている言葉にならないバンドマスターとしての存在感を示された思いがした。ぱい当時出演した中津川の頃のテイクはリード３本からなる構成だったらしいが、この時を疑似体験出来たような気さえしたのはボクだけか。今年ははっきり言ってコレを聴けただけで満足だった。

さて、４年続いた東京公演も今回で一応ひとくぎりつけるようであるが、単なるリスナーとしては毎年でも見たいと思うのは人情だが、本番に至るまでの準備作業には我々の計り知れない苦労が横たわっているのだと思う。４年続いたのも奇跡だったのかも知れない。

『ムーンライダーズ BAKA！あがた森魚 CRAZY！２０００系』ライヴ・レポート

まぁ、解散するということぢゃないので、ひとまず休憩してもらう事も必要なのだろう。

しかし、それにしても今年のメンバー紹介ビデオには笑った。いきなり「はとこ同士」だもの。もう初っ端から「ジャブ・アッパー・ボディ」を食らったようだった。こういうお遊びも架空楽団の大きな魅力になっていると思うのである。

こういう架空楽団を思うとき、ボクはかのビートルズの最強のコピーバンド、ラトルズを想起するのだけれども、彼らは「All you need is love」を捻って「All you need is money」なんて曲を涼しい顔してカヴァーしているのだが、架空楽団にはひとつ日本のラトルズとして今後も君臨し続けてもらいたいと思う次第。

「I can't live without a rose」ならぬ「I can't live without a money」の精神を持って。

散漫な雑文失礼。

(初稿 00.8.28 UP text by 架空楽団評論家 倉太割通)